

# 白老町の山崎シマ子さん、菅野節子さん アイヌ民族文化財団の「アイヌ文化賞」、「アイヌ文化奨励賞」を受賞

情報  
ノート



アイヌ文化賞の山崎さん

アイヌ文化賞を受賞した山崎さん(81)は、旧アイヌ民族博物館に勤め、伝統民具や工芸品の復元・製作に携わるとともに、白老民族芸能保存会会員として古式舞踊の伝承・保存に努めてきました。平成10年には伝統工芸サークル「テケカラペ」を結成し、後進の指導・育成も積極的に行なっています。「活動を続けてこられたのは、素晴らしいものを残してくれたご先祖さまのおかげです。サークルの皆さんにも感謝したい。元気なうちは活動を続けていきたい」と意欲を見せていました。

アイヌ文化の深い知識と技能を有し、長い活動で気負わず、感謝の念を持って文化の振興・発展に取り組むアイヌ文化伝承者の2人に、常本理事長は「功績は極めて大きいです。今後とも活躍を」と期待していました。

アイヌ文化奨励賞を受賞した菅野さん(77)は、生活館で刺しゅう教室講師を



アイヌ文化奨励賞の菅野さん

## 知っておこう アイヌ文化

# イセポ

イランカラプテ。3月、まだ雪の残る山野に目をやると、ウサギの足跡を見かけることがあります。北海道でも、エゾユキウサギという野生のウサギが生息し、アイヌ民族は「イセポ」と呼んで、狩猟の対象としていました。

さて、道東の白糠町の海の近くで育った筆者にとって、ウサギと聞いてイメージするのは、山野を跳ね回る様子より、白く波立つ海の様子です。その様子は、跳ね回るウサギの姿に似ていることから、「ウサギが跳ぶ」と周囲の大人たちが話していたことを思い出します。アイヌ民族も、こうした海が白く波立つ様子を、「イセポ テレケ」(ウサギが跳ねる)と呼び、沖で「イセポ」という言葉を口にすれば、風が吹いて波が立ち、海が荒れるとして、忌言葉と考えていました。ですから、「イセポ」に代わって、「カイクマ」(カイ=折れる、クマ=棒)という言葉を使ったと言います。



イセポ(エゾユキウサギ)

一方で白老地方には、大きなウサギのカムイ(神)が、舟で人間の村に近づく青い霧(=病気のカムイ)を追い払うという、アイヌ民族の神話も伝承され、それを基にしたアニメ、『うさぎがはねた ~イセポ テレケ~』が公益財団法人アイヌ民族文化財団制作のDVD『アイヌのお話アニメ オルシペ スウォプ 5』に収録されています。こちらは、チキサニにて随時、閲覧可能です。

政策推進課 アイヌ政策推進室 学芸員 森洋輔

問い合わせ先：イオル事務所 チキサニ ☎82-6301